聖大木曜日晩課

司祭　我等の神は恒に崇め讃めらる、今も何時も世世に、

誦経　「アミン」

　我等の神よ、光栄は爾に帰す、光栄は爾に帰す。

誦経　**[天の王]**

誦経　**[聖三祝文][至聖三者][天主経]**

司祭　蓋国と権能と光栄は爾父と子と聖神゜に帰す、今も何時も世世に。

誦経　「アミン」

主憐めよ。（三次）

光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、「アミン」

（９時課から続くときはここから）

誦経　来れ、我等の王・神に叩拜せん。

来れ、ハリストス我等の王・神に叩拜俯伏せん。

来れ、ハリストス我等の王と神の前に叩拜俯伏せん。

誦経　**第103聖詠**

我が霊よ、主を讃め揚げよ、主我が神よ、爾は至りて大なり、爾は光栄と威厳とを被れり。爾は光を袍の如くに衣、天を幔の如くに張る、水の上に爾の宮を建て、雲を爾の車と爲し、風の翼にて行く。爾は風を以て爾の使者と爲し、焔を以て爾の役者と爲す。爾は地を固き基に建てたり、此れ世世に動かざらん。爾は淵を以て衣服の如くに之を覆へり、山の巓に水立つ。爾の恐嚇に依りて此れは奔り、爾の雷の聲に由りて速に去る、山に升り、澗に降り、爾の此れが爲に定めし處に至る。爾界を立てて之を踰えざらしむ、反りて地を覆はざらん。爾は泉を澗に遣せ　り　、山の間に水は流れ、野の諸の獣に飲ましむ、野の驢は其渇を止む。空の鳥は其傍に棲み、枝の間より聲を出す。爾は上なる宮より山を潤し、地は爾の造工　　の果にてあき足れり。爾は草を獣の為に生ぜしめ、野菜を人の需の為に生ぜしめて、地より食物を出さしむ。酒は人の心を樂ませ、膏は其面を澤し、餅は人の心　を養ふ。主の樹、其植えたるリワンの柏香木はあき足れり、鳥は其上に巣を造る、松は鶴の棲處たり、高き山は鹿の爲、磐石は兎の為に避所たり。主は月を造りて　　時を定め、日は其入る處を知る。爾暗を布けば、則夜あり、其時林の獣皆出て廻る、獅は獲物の為に吼えて、其食を神に乞ふ。日出づれば、彼等集りて己の穴に伏す。人は其工作の為に出て、勞きて暮に至る。主よ、爾の工業は何ぞ多き、皆智慧を以て作れり、地は爾の造物にて満ちたり。夫の大にして廣き海、彼處には無數の動物、大小の生物あり、彼處には舟通ひ、彼處には彼の大魚あり、爾造り其中に遊ばしむ。彼等は皆爾が時に随ひて食を予ふるを待つ。之に予ふれば受け、爾の手を開けば賜にあかせらる、爾の顔を隠せば惶れ惑ひ、其気を取り上ぐれば死して塵に帰る、爾の気を施せば造られ、爾は又地の面を新にす。願くは光栄は世世に主に在らん、願くは主は己の造工の爲に樂まん。彼地を觀れば、地震ひ、山に触るれば、煙起つ。我生ける中主に歌ひ、世終るまで我が神に歌はん。願くは我が歌は彼に悦ばれん、我主

の爲に樂まん。願くは罪人等は地より消え、不法の者は存するなけん。我が靈よ、主を讃め揚げよ。

誦経　光栄は父と子と聖神°に帰す、今も何時も世世に、「アミン」
　アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、神よ、光栄は爾に帰す。（三次）

［大連祷］

輔祭　我等安和にして主に祷らん、　**（詠）　主憐めよ**

輔祭　上より降る安和と我等が靈の救の爲に主に祷らん、

輔祭　全世界の安和、神の聖なる諸教会の堅立、及び衆人の合一の爲に主に祷らん、

輔祭　此の聖堂、及び信と慎と神を畏るる心とを以て此に来る者の爲に主に祷らん、

輔祭　教会を司る我等の（府）主教（　　）、司祭の尊品、ハリストスに因る輔祭職、悉くの教衆、及び衆人の爲に主に祷らん、

輔祭　我が国の天皇、及び国を司る者の爲に主に祷らん、

輔祭　此の都邑と凡　の都邑と地方の爲、及び信を以て此の中に居る者の爲に主に祷らん、

輔祭　気候順和、五穀豐穣、天下泰平の爲に主に祷らん、

輔祭　航海する者、旅行する者、病を患ふる者、艱難に遭ふ者、虜となりし者、及び彼　等の救の爲に主に祷らん、

輔祭　我等諸の憂愁と忿怒と危難とを免るるが爲に主に祷らん、

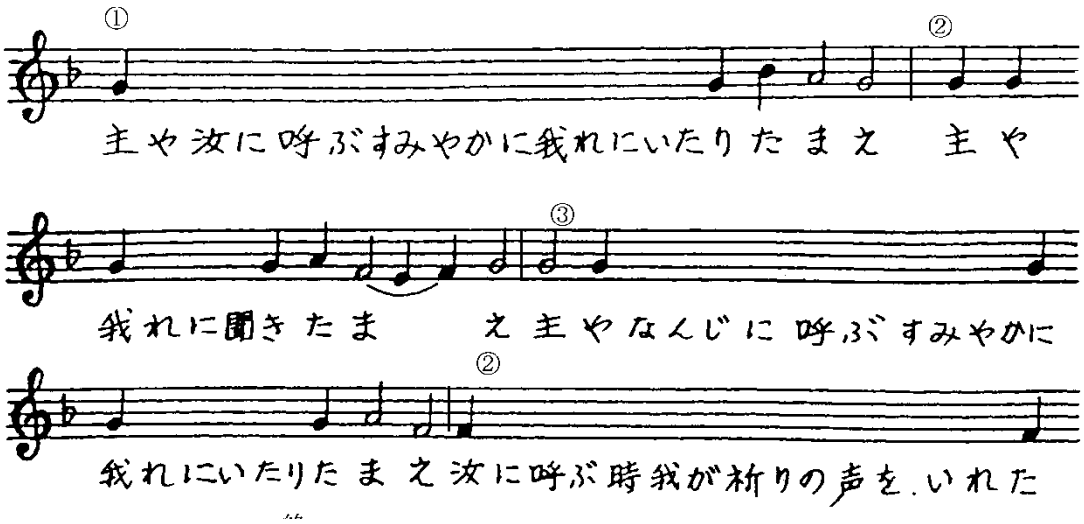
輔祭　神よ、爾の恩寵を以て、我等を佑け救ひ憐み護れよ、

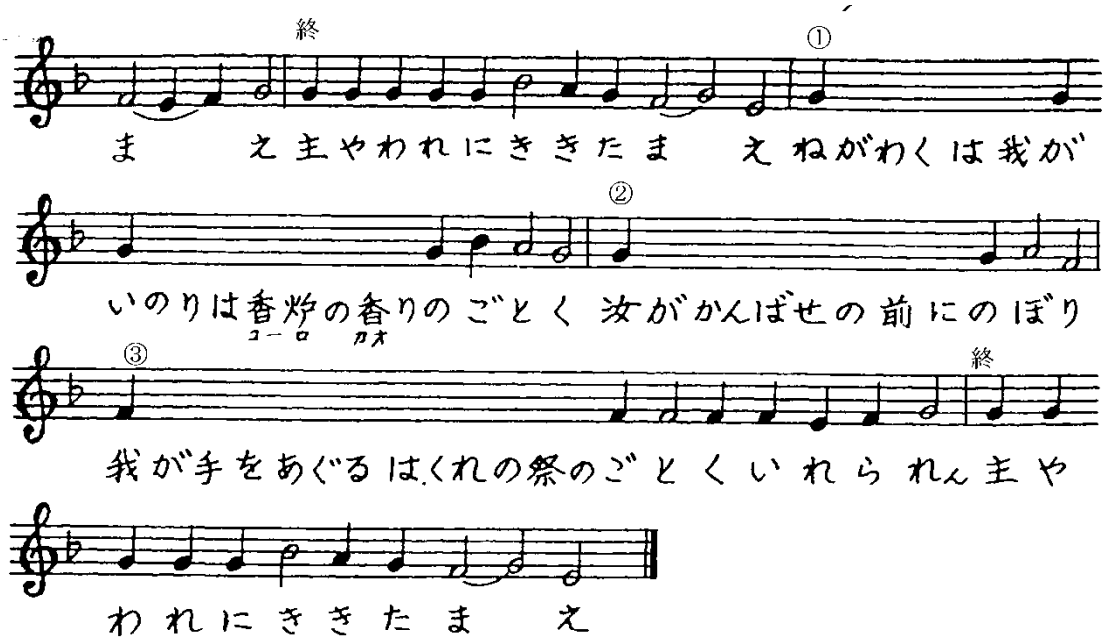
輔祭　至聖至潔にして至りて讃美たる我等の光栄の女宰・生神女・永貞童女マリヤと、諸聖人とを記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、並に悉くの我等の生命を以て、ハリストス神に委託せん、

（詠）　主爾に

司祭　蓋凡そ光栄尊貴伏拜は爾父と子と聖神°に帰す、今も何時も世世に、**（詠）「アミン」**

（詠）　［主よ汝に呼ぶのスティヒラ］第140聖詠（２調で）





（続けて）

誦経　主よ、我が口に衛を置き、我が唇の門を扞ぎ給へ、我が心に邪なる言に傾きて、不法を行ふ人と共に罪のいいわけせしむる母れ、願くは我は彼らの甘味を嘗めざらん。義人は我を罰すべし、是れ矜恤なり、我を譴むべし、是れ極と美しき膏、我が首を悩ます能はざる者なり、唯我が祷は彼等の悪事に敵す。彼等の首長は巌石の間に散じ、我が言の柔和なるを聴く。我等を土の如く斫り砕き、我が骨は地獄の口に散りて落つ。主よ、主よ、唯我が目は爾を仰ぎ、我爾を恃む、我が霊を退くる母れ。我が爲に設けられしわな、不法者の羅より我を護り給へ。不虔者は己の網に羅り、唯我は過ぐるを得ん。

第141聖詠

我が聲を以て主によび、我が聲を以て主に祷り、我が祷を其前に注ぎ、我が憂を其前に顯せり。我が霊我の衷に弱りし時、爾は我の途を知れり、我が行く路に於て彼らは竊に我が爲に網を設けたり。我右に目を注ぐに、一人も我を認むる者なし、我に遁るる所なく、人の我が霊を顧る者なし。主や我爾によんで云へり、爾は我の避所なり、生ける者の地に於て我の分なり。我がよぶを聴き給へ。我甚弱りたればなり、我を迫害する者より救ひ給へ、彼等は我より強ければなり。

（句）我が霊を獄より引出して、我に爾の名を讃栄せしめ給へ、

イウデヤ人の會は馳せ集まる、萬有の造成主及び造物主をピラトに解さん爲なり。嗚呼不法の者や、嗚呼不信の者や、生死者を審判する爲に來らん者を審判に備ふ、苦を醫す者を苦に定む。恒忍なる主よ、爾の憐は大なる哉、光榮は爾に歸す。

（句）　爾恩を我に賜はん時、義人は我を環らん。

同上

第129聖詠（句）主よ、我深き處より爾によぶ。主よ、我が聲を聴き給へ。

主よ、不法なるイウダ、晩餐に於て爾と偕に手を盂に著けし者は、銀を取らん爲に不法の者に手を伸べたり、香膏の價を量りし者は、爾價なき者を賣らんことを畏れざりき。濯はん爲に足を伸べし者は、詐りて主宰に接吻せり、之を不法の者に付さん爲なり。使徒の會を離れ、銀三十を擲ちて、爾の三日目の復活を見ざりき。此の復活に因りて我等を憐み給へ。

（句）願くは爾の耳は我が祷の聲を聴き納れん。

同上

（句）主よ、爾若し不法を糾さば、主よ孰か能く立たん。然れども爾に赦あり、　　人の爾の前に敬しまん爲なり。

賣主者詭譎者たるイウダは主救世主、萬有の主宰を奴隷の如くイウデヤ人に賣りて、詭の接吻を以て之を付せり。神の羔、父の子、獨大仁慈なる者は屠所に就く羊の如く、斯く隨へり。

（句）我主を望み、我が靈主を望み、我彼の言を恃む。

同上

（句）我が靈主を待つこと、番人の旦を待ち、番人の旦を待つより甚し。

奴隷及び詭る者たるイウダは行に由りて門徒及び惡謀者、友及びディアワォルと顯れたり。蓋夫子に隨ひて、彼を付さんことを企てて、己の衷に謂へり、此を賣りて産業を獲んと。彼は香膏をも賣り、イイススをも詭を以て執へんと圖れり、接吻を爲してハリストスを付せり。獨慈憐にして人を愛する者は屠所に就く羊の如く、斯く隨へり。

（句）願はイズライリは主を恃まん、蓋　　憐　は主にあり、大　なる贖　も彼にあり、彼はイズライリを其悉の不法より贖はんとす。（『時課経』）

同上

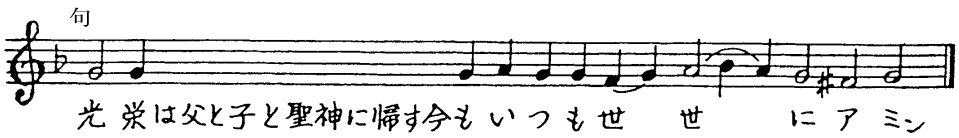
第116聖詠（句）萬民や主を讃め揚げよ、萬族や彼を崇め讃めよ。

イサイヤの傳へたる羔は自由なる屠宰の爲に往き、其背を笞に與へ、其頰を批に與へ、其面を唾せらるる辱より避けざりき、醜き死に定めらる。罪なき者は甘じて一切を受く、衆人に死よりの復活を賜はん爲なり。

（句）蓋彼が我等に施す憐は大なり、主の真実は永く存す。

同上

（詠）　光栄は父と子と聖神°に帰す、今も何時も世世に、「アミン」。



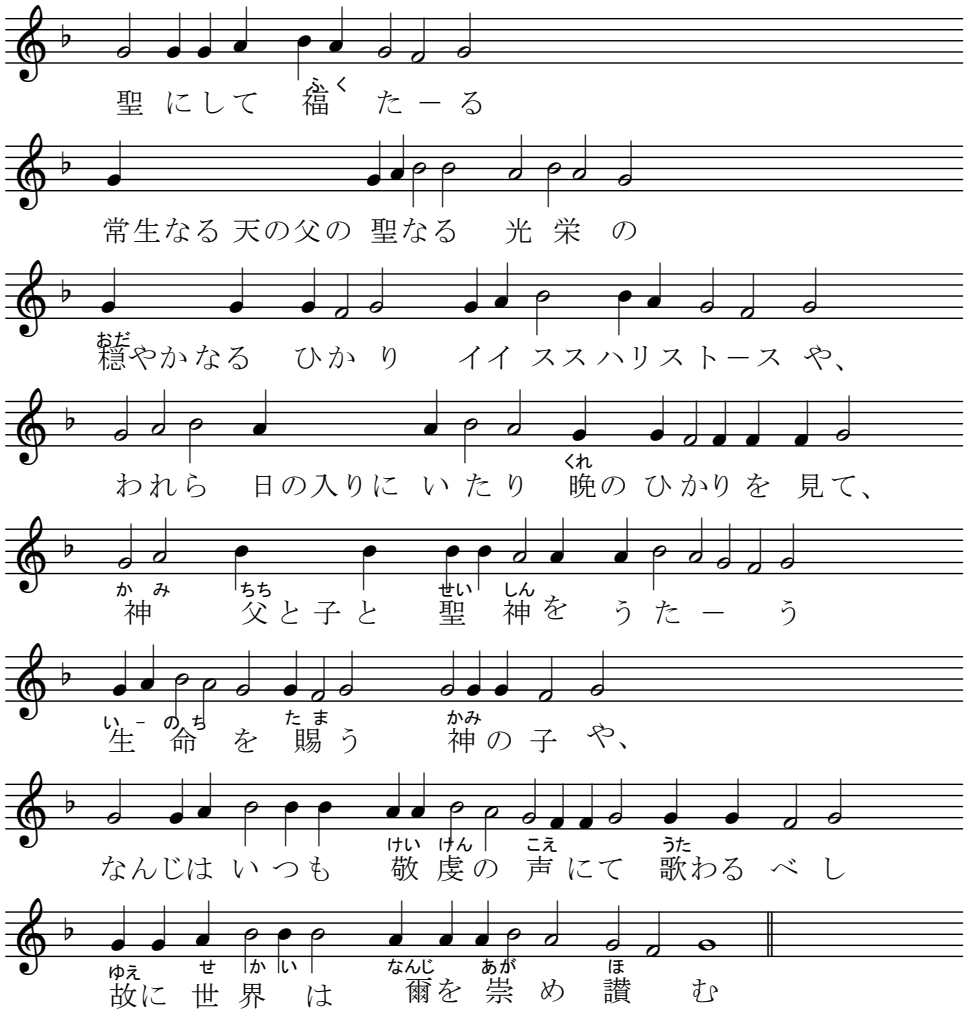
（詠）　［生神女讃詞］６調

イウダは実に蝮の類の裔、／野にマンナを食らいて、／養ふ主を怨みたる者の裔なり。／蓋彼の恩を知らざる者は／糧猶其の口に在るに神を謗れり、／此の不虔の者も／天の糧を猶口に含みて／救主の売りわたしを為せり。／嗚呼飽かざる質／残忍強暴や、／己を養ふを売り、／己が愛せし主宰を死に付す、／実に彼の者の不法の子にして、／彼等とともに滅亡を継ぎたり。／独り恒忍の言い盡くされぬ主よ、／此くのごとき残忍より／我等の霊を免れしめ給へ。

［聖入］

司祭　　睿智、謹みて立て。

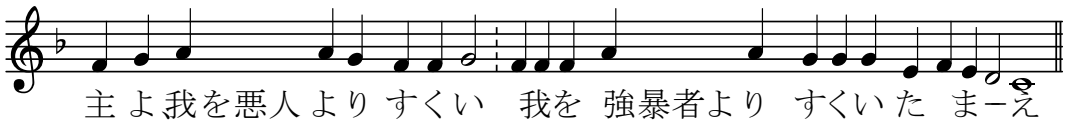
（詠）　聖にして福たる常生なる、天の父の聖なる光栄の穏なる光イイスス・ハリストスよ、　　我等日の入に至り、晩の光を見て、神 父 と子と聖神°を歌ふ。生命を賜ふ神の子よ、爾は何時も敬虔の声にて歌はるべし、故に世界は爾を崇め讃む。



司祭　謹みて聴くべし。

[ポロキメン] 1調　主よ、我を悪人より救ひ、我を強暴者より護り給へ。

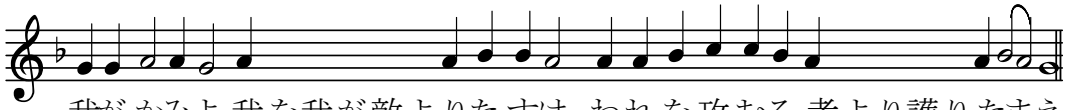
（句）彼等心に悪を謀り、毎日戦を備ふ。



【エギペトを出づる記の読み】１９章

[ポロキメン]7調　我が神よ、我を我が敵より援(たす)け、我を攻むる者より護り給へ。

（句）我を不法を行う者より援け給へ。



【イオフ書の読み】３８，４２章

【イサイヤの預言書の読み】５０章

【小連祷】

輔祭　我等復又安和にして主に祷らん、　**（詠）主憐めよ**

輔祭　神よ、爾の恩寵を以て、我等を佑け救ひ憐み護れよ、　**（詠）　主憐めよ**

輔祭　至聖至潔にして至りて讃美たる我等の光栄の女宰・生神女・永貞童女マリヤと、　諸聖人とを記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、并に悉くの我等の生命　を以て、ハリストス神に委託せん、　**（詠）　主爾に**

司祭　蓋権柄及び国と権能と光栄は爾父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、**（詠）「アミン」**

誦経　主よ、我等を守り、罪なくして此の日を度らせ給へ。主吾が先祖の神よ、爾は崇め讃められ、爾の名は尊み歌はる、「アミン」主よ、爾を恃むに因りて、爾の憐を我等に垂れ給へ。主よ、爾は崇め讃めらる、爾の誡を我に訓へ給へ。主宰よ、爾は崇め讃めらる、爾の誡にて我に悟らせ給へ。聖なる者よ、爾は崇め讃めらる、爾の誡にて我を照らし給へ。

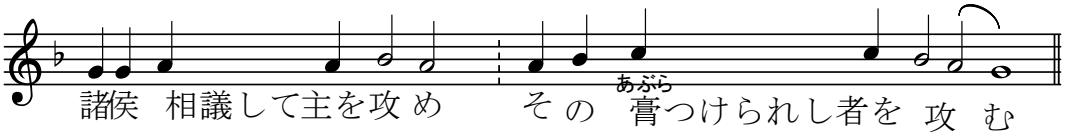
主よ、爾の憐は世世に在り、爾の手の造りし物を棄つる勿れ。讃は爾に帰し、歌は爾に帰し、光栄は爾父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、「アミン」

［聖三の歌］

［使徒のポロキメン］７調

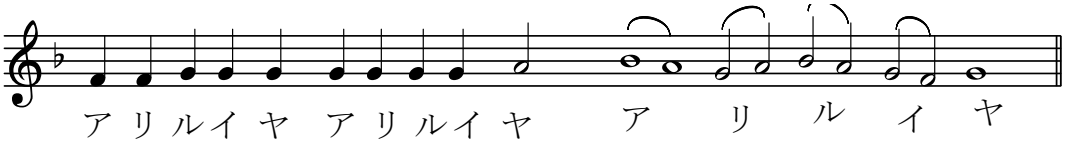
諸侯相議りて主を攻め、其の膏つけられし者を攻む。

（句）諸民何為れぞ騒ぎ、諸族何為すれぞ徒に謀る。



［使徒経の読み］コリンフ149端

［アリルイヤ］６調



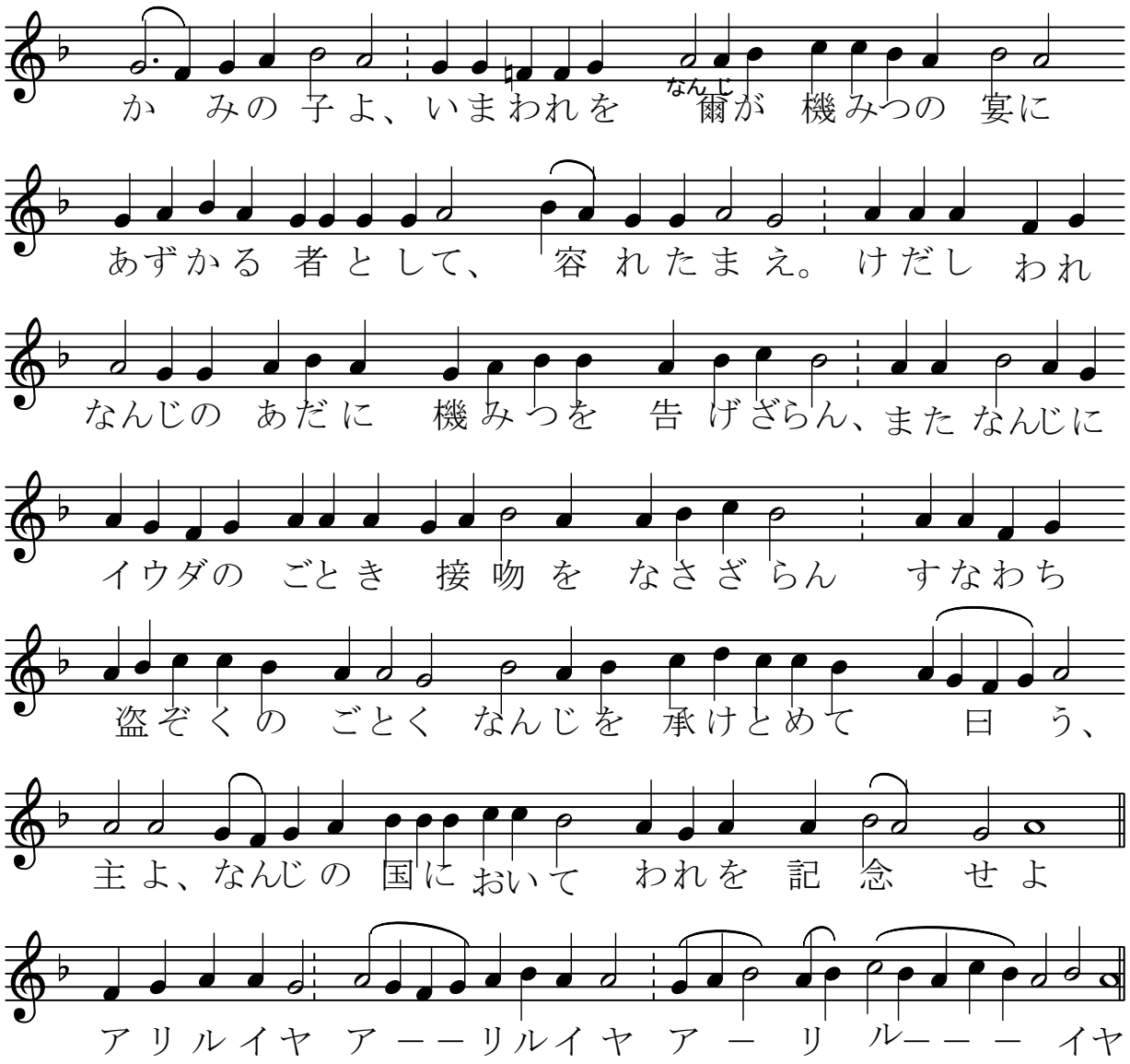
貧しき者乏しき者を顧みる人は福なり、患難の日に主は彼を救はん。句、我の敵は我が事を悪言して曰ふ、彼は何の時に死して、其名滅びん。句、我が餅を食ひし者も亦我に向ひて其踵を擧げたり。

［福音の読み］続いてワシリーの聖体礼儀

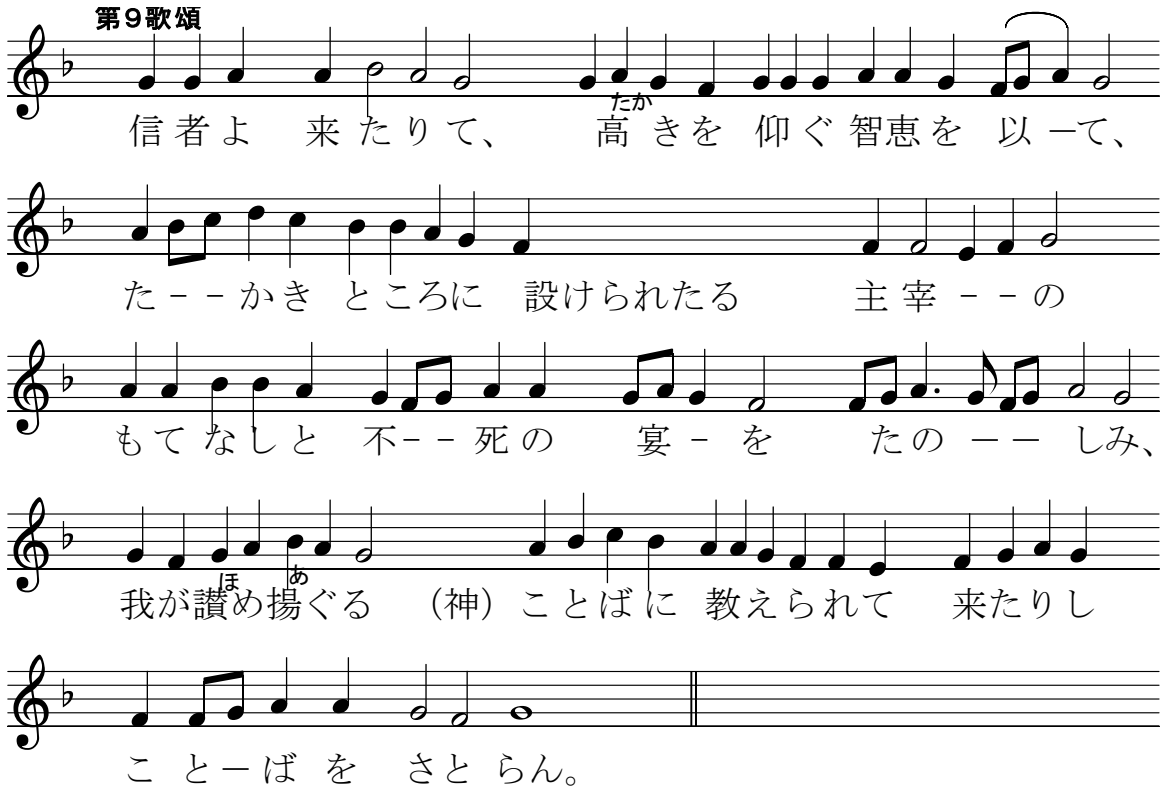
ただし「ヘルビムの歌に代えて」、以下のトロパリ。

神の子よ、／今我を爾が機密の宴に与る者として容れ給へ、／蓋我爾の仇に機密を告げざらん、／又爾にイウダのごとき接吻を為さざらん／、乃ち盗賊の如く承け認めて曰ふ、／主よ、爾の国に於いて我を記念せよ。アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ。

（２回歌って、大聖入の記憶、アミンのあともう一度。）



「常に福」の代わりにイルモス第９歌頌。（次ページ）、あとはワシリーの聖体礼儀



領聖詞も「神の子よ」。

「アミン」「主よ、願わくは我が口は爾の讃美に」の代わりにも上記のトロパリ「神の子よ」を歌う。